

ビルの間をすりぬけて、江戸の名残りをたずねます。



1 東京駅八重洲口

丸の内とならぶ東京駅の玄関。一日約70万人もの乗降客がある。この八重洲口は昭和4年に開設され、昭和29年に江戸時代の外堀を埋め立て、現在の駅庁舎が完成した。なお、八重洲大地下街も、規模においては日本有数。

八重洲1-11先

2 プリジストン美術館

石橋正次郎氏の美術コレクションを基に、昭和27年(1952)設立。西洋古代の美術品、フランス印象派、ヨーロッパの近代彫刻、そしてわが国の代表的近代洋画家の作品など、300点余りが常設展示されている。

京橋1-10-1

3 高島屋東京店

明治30年、この地に outlet。もともとは、京都で天保2年(1831)創業の呉服屋であった。建物は昭和8年に建設され、この付近では有数の古さを誇っている。なお、高島屋の向かいには、洋書で知られる丸善がある。

日本橋2-4-1

4 名水白木屋の井戸

昭和42年までは、白木屋という屋号であった。白木屋は、寛文2年(1662)創業。越後屋と並び呉服の大手。正徳2年(1712)、二代目木村彦太郎が井戸を掘ったところ、土中より観音様が現れ、清水が湧き出したと伝えられ、以後「白木名水」とうたわれた。

日本橋1-4

5 日本国道路元標

慶長8年(1603)、家康によって架けられた日本橋は、日本の中心、江戸繁栄の象徴となった。そして諸街道の起点と定められ、現在も、橋の中央に日本国道路元標が埋め込まれている。今日のルネッサンス式石橋は、明治44年(1911)に架設された。

日本橋1-1先

6 日本橋魚河岸記念碑

佃島の漁師らが、幕府に日々上納する残りの鮮魚を、舟板の上に並べて売り出したのが日本橋魚河岸のはじまり。関東大震災まで、江戸及び東京の台所として活況を呈した。

日本橋室町1-8-1先

7 一石橋迷子しらせ石碑

安政4年に建てられた庶民の告知板「たつめる方」「しらす方」のそれぞれに、年頃、面体、格好、履物、衣類などを書いた紙を貼るようになっている。

八重洲1-11先

8 日本銀行本店本館

昭和29年、大判・小判を管理していた徳川氏金座跡に建てられた。以来、銀行の銀行としての役割をはたしている。本館の建物は、明治時代の貴重な本格的洋風建築として、重要文化財に指定されている。

日本橋本石町2-1-1

9 十軒店跡

五代将軍綱吉が、京都の雛人形師10人を招き、ここにお長屋10軒を与えた。3月、5月には節句人形が軒なみ飾られ、「十軒が十軒ながら公卿の宿」とうたわれた。現在の室町3丁目付近。

日本橋室町33-2-15

10 三井記念美術館

延宝元年(1673)三井高利が江戸日本橋に越後屋を開業。「現銀掛値なし」という、当時としては画期的な正札販売でたちまち大呉服店となった。大正3年、東口玄関にライオン像をおき、これをシンボルとした。

日本橋室町2-1-1

11 三越日本橋本店

延宝元年(1673)三井高利が江戸日本橋に越後屋を開業。「現銀掛値なし」という、当時としては画期的な正札販売でたちまち大呉服店となった。大正3年、東口玄関にライオン像をおき、これをシンボルとした。

日本橋室町1-4-1

12 長崎屋跡

寛永18年(1641)の鎖国後、オランダ商館長は、長崎島から年一度、将軍拝謁のため上京した。その折、長崎屋を定宿としていた。また、滞在中には、幕府の医官、蘭学者などが訪問し、新知識を吸収する場でもあった。

日本橋室町4-4

13 宝田恵比寿神社とべったらし

この神社は、毎年10月19日、20日のべったらし市で有名。この両側せましと浅漬大根の露店が並び、大変な人出となる。今に残る江戸年中行事の一つで、このべったらし市が終わると、東京に冬がくるといわれている。

日本橋本町3-10-11

14 於竹大日如来井戸跡

大伝馬の名主、馬込家の下女お竹は、日頃より慈悲心が深く、ある日、行者から大日如来の化身であると告げられた。多くの人がお竹を拝むために訪れ、お竹が愛用した井戸には、参拝者が市をなしたという。

日本橋本町3-6-2

15 伝馬町牢屋敷跡

牢屋敷は天正年間(1573~1591)、常盤橋門外におかれたのが最初。延宝5年(1677)にこの地に移された。江戸時代、全国最大の牢屋であったが、明治8年(1875)に廃止。安政大獄では吉田松陰などが投獄された。

日本橋小伝馬町3-4-5

16 石町時の鐘

江戸市民に親しまれた時報鐘のひとつ。現在の日本橋室町4丁目付近にあった。近くにオランダ人の定宿、長崎屋があったため、「石町の鐘はオランダまで聞こえ」とうたいはやされた。高さ1.7m、口径93cmの和鐘である。

日本橋小伝馬町5-2 十思公園内

17 吉田松陰終焉の地

兵学、洋学に通じた幕末の長州藩士・吉田松陰は、幕府の条約調印に関して閣老間部詮勝の襲撃を謀ったとして捕らえられ、安政6年(1859)伝馬町牢屋敷で処刑された。松陰直筆の辞世の歌が刻まれている。

日本橋小伝馬町5-2 十思公園内

18 馬喰町・横山町・堀留町問屋街

繊維や衣料、身廻品の問屋街として海外にまで知られている。江戸時代、馬喰町旅瑠籠街に投宿する旅人のために小問物問屋などが開店し、これが今日まで引き継がれている。素人お断りの店が多いが、だれでも買える店もある。